

養父市輝く地域サロン vol.2

開催レポート

～話し手 中野 宗一郎さん（養父市男女共同参画推進員）のご紹介～

養父市出身。市内の高校を卒業後、大学では経済や経営のほか、まちづくりについて学び、地域連携プロジェクトや被災地ボランティア活動等にも積極的に参加されました。

現在は養父市へリターンし、家業に就きながら消防団をはじめとする様々な地域活動において新しい提案をおこなうなど、若者視点のまちづくりに取り組んでおられます。

「まちづくり」に興味をもったきっかけ

子どものころからお父さんに連れられて、消防団などの地域の集まりに参加していた中野さん。そのころから興味があった分野でしたが、大学の学びの中で、いままではあくまで「地域の誰かが頑張っている」ところに参加させてもらっていたのだと気づきました。大学でのまちづくりの学びや経験を経て、他人事ではなく若者が主体的に動きかけを行うことで、誰もが暮らしやすいまちになるのではと考えるようになりました。



人口減少対策のカギは女性の雇用創出！？

中野さんは、大学で女性の労働力をテーマに卒業論文を執筆されました。

これからの養父市を考える中で、日本創成会議・人口減少問題検討分科会が2014年に公表した「ストップ少子化・地方元気戦略（通称：増田レポート）」などを参考に考察をすすめ、地方における女性の回帰率（Uターン率）が人口減少に大きな影響を与えていると知り、養父市出身の同年代女性たちはどう考えているか気になった、というのが本テーマを選んだ理由だそうです。

養父市に帰ってきたいと思う女性を増やすためには、市全体の魅力発信はもちろん、性別に関わらず、育児・介護等と両立しながら働き続けられる魅力的な職場環境が必要だと考えました。

論文作成時に地元出身者（同年代男女）を対象にアンケートをとったところ、Uターンの決め手として「家族が近くにいること」に次いで「雇用の安定」と答える人が多かったことから、医療、介護職をはじめとした専門職など、帰ってきたときの受け皿（仕事）を創出することは、人口減少対策としてUターン者を増やすうえで効果的であると分かりました。



若者と地域をつなぐ「かかわりしろ」

「しろ」は「のりしろ」と同じ意味。子どもの頃にどれだけ地域と関わるか、いわゆる「のりしろ」の部分がどれだけあるかによって、地元に戻ってくる意思の大きさが決まるのではないかと、中野さんは言います。

高校を卒業するまでに、いかに地域と触れ合い、つながりをつくれるかが鍵。実際に、中野さんは大学卒業と同時に養父市にUターンされました。

広谷地区は、消防団家族で構成される「広谷桜会」というボランティア団体がありますが、中野さんは幼少期からお父さんと一緒に桜会の行事に参加していたことで、自然と消防団活動の見学や、祭りなどのイベントを手伝うようになっていました。

そのおかげで、養父市に戻ってからも顔見知りの方が多く、温かく受け入れてくれたそうです。幼いころから、地域の大人が楽しそうに活動している姿を近くで見えてきたことが、「将来は地元に戻りたい」と思う重要な決め手だったそうです。

これからのまちづくりのポイントは、「若者視点」

文化や伝統も大切だが、意味なく続けているとみんなが疲弊してしまう。

核家族化や共働きの影響で、若い世代が地域活動に費やせる時間も変化しているため、その変化に柔軟に対応しつつ、無駄を省き、多様な意見を聞き、みんなが楽しいと思える活動をすることが、これからのまちづくりに必要ではないか。と話されていました。



ワークショップ

①「住みたい地域ってどんな場所？」

<コミュニティ>

- ・ 過度の干渉が少ない（コミュニティを楽しめる）
- ・ 自分らしく暮らせる（周りからとやかく言われない）
- ・ ジェンダーギャップが少ない
- ・ 祭りやイベントが活発
- ・ 交流の場が充実している
- ・ 思いやりのある人が集まっている
- ・ 居場所がある
- ・ 地域をよくするための意見に耳を傾けてくれる人がいる

<環境>

- ・ 歩いていると楽しい
- ・ レトロでエモい田舎の景観がうまく活用されている
- ・ 交通の便が良い（免許返納しても大丈夫）
- ・ 食べる物がおいしい
- ・ 中心地でなくても欲しいものが手に入る

<仕事>

- ・ 起業しやすい（サポートが充実）
- ・ ロールモデルがいる
- ・ リモートで働ける
- ・ 雇用がある

<子育て>

- ・ 公園などの遊ぶ場所が充実している
- ・ 手助けしてくれる人がいる（家族、友人、近所の人）

など



②「どうすれば養父市が①のような理想の地域に近づける？」

<コミュニティ>

- ・ 他人に干渉しすぎない！噂話はほどほどに！
- ・ 地域に対して矢印が向いてない人も（楽しんで）巻き込める企画づくり
- ・ 地域活動に参加したらやっぶるポイントがつく仕組み（メリット）
- ・ 登録ボランティア制度（市民同士で得意なことをギブアンドテイク）
- ・ 親のネガティブキャンペーンをやめる（「こんなとこ帰ってこん方がいい」はダメ！）
- ・ 同じ想いを持つ人同士をつなげてあげる仕組み
- ・ 地域のことを自分ごととして考えてもらう
- ・ 20～30代が発言しやすい環境づくり
- ・ 自治組織を改革

<環境>

- ・ レンタルサイクルの仕組みづくり
- ・ 無人運転バスを実用化
- ・ ベッドタウンとしての開発
- ・ 飲食店の整備（短期で内容が変わったりしたら楽しそう）
- ・ 空き店舗や公共施設をサードプレイスに！

<仕事>

- ・ 効果的な人材育成（企業の垣根を超えたメンター制度）
- ・ 企業誘致

<情報発信>

- ・ おすすめお散歩コース、レトロな景観など、地元ならではの情報発信
- ・ 様々な角度で話題になりそうなネタをどんどん発信し、関係人口を増やす
- ・ Youtuber の発掘
- ・ 市独自の取り組みについて分かりやすく情報発信

など

